

第13回関西生殖医学集談会・第57回関西アンドロロジーカンファレンス

一般演題 産婦人科 8

大阪,2025.3.15

演題名:

胚移植後生産にいたった8467周期における移植法別周産期合併症頻度の比較検討：合併症予防の観点から考える最適な胚移植法

藤岡 聡子¹⁾ 松本 寛史¹⁾ 小西 晴久²⁾ 寺脇 奈緒子³⁾ 福田 愛作¹⁾ 森本 義晴³⁾

IVF大阪クリニック

IVFなんばクリニック

HORACグランフロント大阪クリニック

抄録本文:

【緒言】わが国のART出生児数は2022年に77,206人となり、そのうち93% (72,201人) が凍結融解胚移植による出生であった。しかしこれまでホルモン補充周期凍結融解胚移植では自然排卵周期と比較し癒着胎盤のリスクが高率であることが報告されている。そこで当該グループで胚移植後生産にいたった8467周期について胚移植法別に周産期合併症発症率に差があるのか検討を行った。

【方法】2015年1月から2022年6月までに胚移植実施後生産にいたった8467周期：新鮮胚移植 (Fresh群) 1076周期、自然排卵周期凍結融解胚移植 (NC群) 2223周期、ホルモン補充周期凍結融解胚移植 (HRC群) 5168周期 の3群間で癒着胎盤、前置胎盤、低置胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、子宮破裂、羊水塞栓、母体輸血、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群の発症率を後方視的に検討した。また、それぞれの合併症発症との関連が示唆される要因(分娩歴、出産時年齢、在胎週数、分娩様式、移植時内膜厚、BMI)を含めて多変量解析を行った。

【結果】癒着胎盤の発症率はFresh群1.1% vs NC群1.6% vs HRC群5.1%、弛緩出血はFresh群3.2% vs NC群3.7% vs HRC群9.0%、妊娠高血圧症候群はFresh群6.2% vs NC群5.6% vs HRC群10.8%と3つの合併症についてHRC群がFresh群及びNC群に比べ有意に高率であり ($p < 0.0001$)、多変量解析においてもFresh群・NC群に比べHRC群では発症のオッズが有意に高かった。一方、前置胎盤、低置胎盤、常位胎盤早期剥離、子宮破裂、羊水塞栓、母体輸血、妊娠糖尿病の発症率は3群間で有意差を認めず。前置胎盤、妊娠糖尿病は多変量解析においてもFresh群・NC群に比べHRC群での発症オッズの有意な上昇や低下を認めなかった。低置胎盤、常位胎盤早期剥離、子宮破裂、羊水塞栓、母体輸血は数が少なく多変量解析は行えなかった。

【結論】ART 妊娠において周産期合併症を回避するために、凍結融解胚移植では自然排卵

周期を、可能であれば Time to pregnancy の観点からも新鮮胚移植を選択することが望ましいと考える。